

(学年) 3年次、(教科・科目) 英語・コミュニケーション英語Ⅱ

一斉学習

(単元) Lesson8 The Magic of the Cotswolds

(本時のねらい)

- ・映画 **Harry Potter** などからイギリス文化に触れさせ、異文化を感じさせる。
- ・関係副詞を使うことで、日本や地元などのお勧めの場所が説明でき、それをメール形式で書くことができるようにさせる。
- ・新出語彙に関して、音声からの練習を多くさせる。

(ICT 活用方法)

映画 **Harry Potter** や、イギリスの風景などを知るために電子黒板に映画 **Harry Potter** の映像を映す。また教科書に出てくる写真も電子黒板に映しシェアをする。従来は、ピクチャーカードなど小さいものを掲示するか教科書内のものを見るように指示していたが、大きく映し出すことができ、また画像内のどの部分を話しているかが明確に示せる。また語彙に関して、単純なリピート練習に限らず、スピードの調整、フラッシュカード方式での練習など多岐にわたらせることができる。文法に関してもワークシートを提示することで特にスローラーナの生徒はワークシートの書き写し等が容易になる。

(本時の展開)

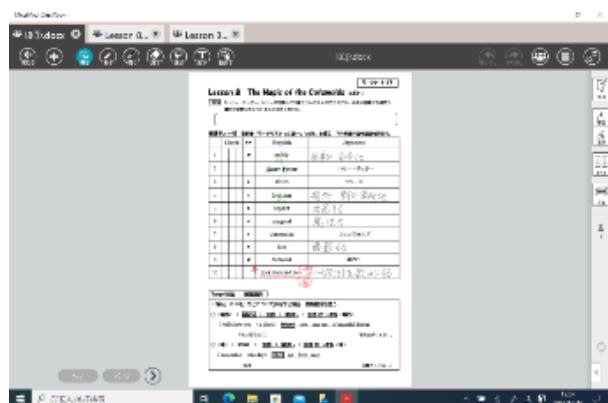
時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習をし、本時の目標を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の内容を思い出させる。 ・本時の内容を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の題材に関する動画を電子黒板に映す。
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・映像から場面を想像する。 ・語句の確認と発音練習をする。 ・関係副詞の理解とそれを用いたクイズを作成する。 ・クイズを出題し、お互いに考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学ぶ写真を提示する。 ・語彙の確認をデジタル音声等を用いてさせる。 ・関係副詞の説明をする。 ・クイズを提示し発表させ考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板に映像などを映す。 ・デジタル教科書の音声を使い、英⇄日両方からの語彙の定着を図る。 ・例文を提示し、理解を促す。 ・生徒が作ったクイズを提示することで効率よくシェアする。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りとしての語彙の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の習熟度に合わせてデジタル音声を流して練習さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル音声を習熟度でカスタマイズして再生する。状況に応じて英→日、

	<ul style="list-style-type: none"> ・次時について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日→英、英→英等で流す。 ・次時の内容に関する画像を提示する。
--	--	--	---

(授業の様子)



教材投影方法



使用したワークシートの一部

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

従来、画像となると写真や地図の掲示で後部座席の生徒からは見づらいなどの問題点があった。また、動画を見せる際には視聴覚教室等で行い、その時間は動画がメインになってしまっていた。しかし、ICT 機器利用で画像は大きく表示でき、また動画も必要などこのみを教室で見せることができ、効率よく授業が進められるようになったと感じる。

生徒は、画像、映像を伴う教材の方が紙媒体のみより好んでいる。活動に関して英文、英単語を聞くだけでリピートするときよりも、音声とその英文、単語が同時に表示されている方が読みやすく、単語の定着につなげやすいようである。目と耳の両方から同時に入ってくる情報の方が、デジタルネイティブ世代には受け入れやすいのだと感じた。

課題は、黒板より小さい電子黒板に一度に提示する情報量の調整があげられると思う。ワークシート作成の段階で精査しなければいけない。

個人的な反省点は、デジタルデータを私が提示するにとどまっているので、生徒自身にもタブレットを使用させ活用させるようにしていきたい。授業支援クラウドアプリなどのアプリもまだまだ使いこなせていない機能があるので勉強していきたい。ICT 活用の有無に関わらず、日々授業力を上げていきブラッシュアップに努めたい。